

2025 年 12 月期 第3四半期決算説明会 質疑応答の要約

開催日: 2025 年 11 月 14 日

登壇者: 取締役、専務執行役員、最高財務責任者 浅井 健

資料: <https://pdf.irpocket.com/C4631/IAG8/MTIS/HsJ8.pdf>

Q: 4Q の米州・欧州の出荷数量見通し、およびエレクトロニクス関連の出荷数量見通しは？

A: ヨーロッパは需要が厳しい状態が続いており、パッケージング & グラフィック、カラー & ディスプレイについては数量面での回復が見通しづらい。エレクトロニクス向けが中心となるケミロニクス事業では、3Q 同様の堅調な出荷が期待できる。

Q: 今期の増益は、価格ギャップと顔料事業の固定費削減の効果が大きかった。来期も同程度の効果を発現させることは難しいように見えるが、営業利益の最高益更新に向けた確度は？

A: パッケージング & グラフィックおよびファンクショナルプロダクツの需要が伸び悩んでいる事業については構造改革が必要と考えており、まだコスト削減の余地はあると考えている。それらのコスト削減効果を織り込んで最高益更新を目指す。2030 年までの長期経営計画の Phase2 にあたる 2026～2030 年の計画を来年 2 月に発表予定なので、その時にご説明したい。

Q: パッケージング & グラフィック部門の利益率の上昇は、価格改定が主な要因なのか。開示しているパッケージング & グラフィックの年間見通しから 4Q を逆算すると 3Q に対して減益となるが、上振れ余地はないか。

A: 価格是正やジェットインキの好調な出荷がクォーターごとの増益を支えており、期末に特別な減益要因はないため、4Q は上振れ余地があると見ている。

Q: 美術品売却の影響でキャッシュインが増えた場合、追加株主還元の可能性はあるか。

A: 2025 年度の配当を 200 円から修正することは考えていない。見込み以上のキャッシュが発生すれば、2026 年度の配当に反映することを検討する。

Q: ヨーロッパやアジアでのインキの価格競争、数量状況について

A: トランプ関税の影響で、アメリカ向けの最終消費財が中国からアジアに流入している。それにより、当社のアジア顧客の売上高が減少しているため、当社も間接的にマイナス影響を受けている。特にインドネシアで顕著な影響があった。この影響は当面続くと見ている。

欧州では現地の競合が価格を下げて市場シェアを狙っているが、当社は販売価格を維持し、数量よりも収益性を重視した価格政策を取っている。

価格競争には巻きこまれないとの方針のもと、それに伴うある程度の数量減少は許容しつつ、利益の絶対額を重視して販売価格をコントロールしていく。

Q: 顔料の競争環境と需要環境について

A: 欧州において競合が価格を下げてボリュームを取りに行く動きが見られるが、当社は価格を維持する方針をとっている。また、需要環境に関しては、ヨーロッパのマーケットは依然として低迷しており、特に塗料用顔料の需要は厳しい状況が続いている。トランプ関税により行き場を失ったインドや中国からの低価格品の流入も競争環境にネガティブな影響を与えている。需要回復の兆しははっきりしていないが、引き続き価格面での戦略を重視している。